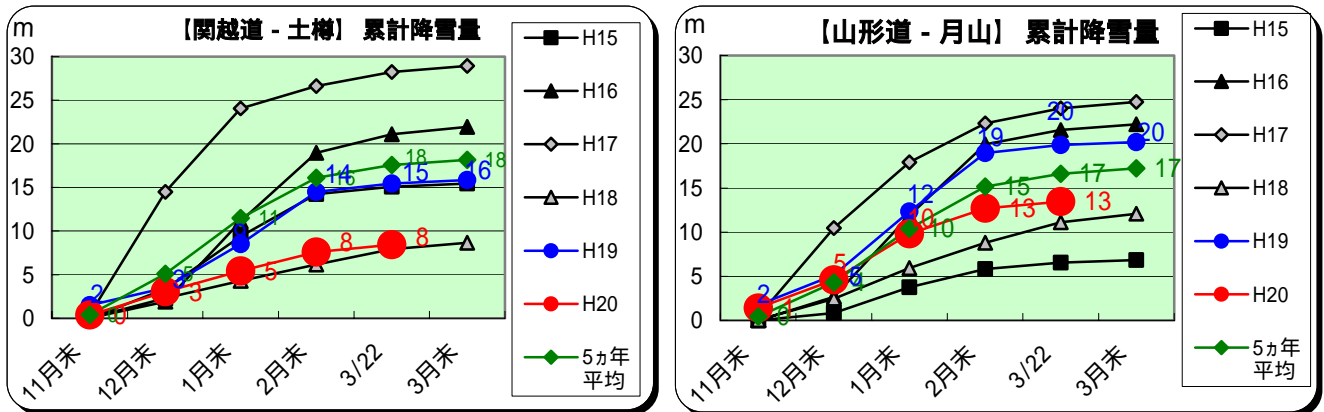


降雪の影響について

1. 降雪量

3月22日までの累計降雪量は、過去東日本管内で一番の降雪を記録した関越道の土樽で約8mであり、昨シーズンの同時期の累計降雪量(約15m)と比較して約50%、過去5ヵ年平均(H15~H19)の同時期の累計降雪量(約18m)と比較して約45%、全国的に記録的暖冬であった平成18年度と同程度となっています。また、山形道の月山では約13mであり、昨シーズンの同時期の累計降雪量(約20m)と比較して約65%、過去5ヵ年平均の累計降雪量(約17m)と比較して約75%、全国的に記録的暖冬であった平成18年度と比較して約120%となっています。



2. 降雪などによる通行止実施状況

雪による通行止量()は、平成20年11月1日から平成21年3月22日までの間で、約61,400km・hとなり、雪の影響による通行止の少なかった平成18及び19年度の同期間よりも通行止量は減少し、平成15から19年度までの5ヵ年平均値の約45%となっております。

通行止量

通行止を実施した区間距離に通行止時間を乗じた通行止の絶対量を表す指標。

$$\text{通行止量 (km} \cdot \text{h)} = \text{通行止区間距離 (km)} \times \text{通行止延べ時間 (h)}$$

通行止量による対比<速報値>

